

エマージング・マーケットにおける制度改革・市場統合と経済成長 (中東欧・中央アジア・ロシアおよび中国)

< 会議の背景と概要 >

欧州復興開発銀行(EBRD)はロンドンを拠点とし、中東欧、ロシア、中央アジア等の旧共産主義諸国の開放された市場指向型経済への移行促進と起業家のイニシアティブ育成を目的とする国際金融機関であります。当行は、共産主義と中央統制経済が崩壊する中、60ヶ国と二つの国際機関により1991年に設立されました。今日、EBRDは共産主義体制後の移行地域における最大の投融資機関の一つであり、投融資を通じて、中東欧、ロシア及び中央アジアの27カ国において市場経済と民主主義の構築を支援しています。EBRDは、主に民間企業を対象とし、通常、民間投資家と共に投融資を行っております。

当会議の目的は、最近の研究成果に基づき、市場経済を支える制度、その制度が共産主義体制後の移行及びアジアやその他のエマージング・マーケットの経済成長促進に与える影響を経済政策の観点から議論することにあります。これらの研究の多くは、日本・欧州協力基金による支援の下、EBRD チーフ・エコノミスト・オフィスによって推進されました。当会議にはEBRD スタッフの他、当分野における著名な学者、研究者および政府関係者が参加いたします。

当会議の主要テーマは、エマージング・マーケットにおける市場経済を支える制度の発展、国境を越えた市場統合及び経済成長の過程にあります。

第一パネルでは、市場経済を支える制度発展に貢献する要因（特に憲法等の政治制度及び国際市場に対する開放度）を考察します。

第二パネルでは、どのような制度が各々の経済発展段階において適当であるか、又各々の制度がいかに企業の生産性を高めその成長を促進するかを考察します。

第三パネルでは、経済の柔軟性を促進し、大幅な経済体制変換を行っていくにあたり、社会制度とセーフティ・ネットがどのような役割を担っていくかを考察します。

第四パネルでは、制度と市場競争が金融市場の発展と安定にどのような影響を与えるかを考察します。

クロージング・パネル討論では、中東欧、ロシア、中国及び日本から著名な学者、研究者及び政府関係者を招き、エマージング・マーケットが変化に対応し高成長を達成するための教訓として何が本会議の成果から得られるかを議論していただきます。